

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表①

(令和4年度版)

(様式1)

羅 針 盤			方 策		第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目			自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。 ②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。 ③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。 ④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	学校全体で文武両道の行動規範を推奨し、生徒が1日の中での文武両道を意識して、主体的に日々の学習と部活動に取り組むよう、機会あるごとに機運を高める。 折に触れ、「五常の教え」について意識させ、学校行事などで更に浸透を図る。教職員自ら手本となり全員で挨拶の励行と清掃活動に取り組む。 食育に関する「食と健康」や保健に関する「保健便り」などの広報誌を発行し食事の重要性について生徒に訴えたり、「料理講習会」などの食に関する生徒向け行事を行ったりする。 生徒が日々の学習活動及び学校行事や部活動等に主体的に取り組める雰囲気醸成し、学校生活の中で楽しさや充実感を感じるような教育活動の場面を設定する。		A 職92%	A 生80% 保80%	充実感のある学校生活となるよう、引き続き学習時間の確保と部活動の活性化を目指して継続的に指導していく。			
	II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に教科担当者が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。 ⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	職員が日頃の授業の様子や学びの基礎診断テストツールの結果などから、生徒の学習状況を把握し、個々の学習レベルに合わせ、生徒の疑問にわかりやすく答える。 少人数・習熟度別授業のメリットを活かした授業内容や進度について、各教科で検討し、主体的で対話的な深い学びに繋がるよう授業改善に努める	A 職96%	A 生92% 保77%	日々の学校生活や特別活動の中で「五常の教え」が実践された好例などを、折に触れ生徒に紹介していく。			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	授業内容と連動した有効な家庭学習課題を授業計画に組み入れる。また、家庭学習でク롬ブックを有効に活用し、学び直しが繋がるような学習課題を設定し、一人一人の絶対的な家庭での学習時間を増加させる。	A 職100%	B 生88% 保85%	引き続き、食に関する広報紙「食と健康」や「保健便り」等で生徒の食に関する意識を高めていく。				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。 ⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	「青春の志」実現計画を踏まえ、年3回の二者面談週間や各担任との面談を通して、生徒の学習面・生活面について把握し、各自にあった適切な指導を行う。 学年会議や分掌会議での情報を共有し、生徒の些細な変化や悩みなどに速やかに対応できるようにする。学年と分掌が互いに得た情報をフィードバックするとともに管理職も含めた組織的な指導を行う。	A 職100%	A 生93% 保78%	各種アンケートや基礎診断テストの結果を活かしながら、個々の生徒の学習状況を把握した上で、生徒の疑問に対応する。 スタディサブリの課題配信等を利用した個別最適化した学習による学力の伸長を目指し、生徒の学びが停滞しないよう研鑽する。				
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	本校はいじめ防止プログラムに取り組むとともに、校内職員研修の充実を図る。学期に1回以上、いじめアンケートを行い、いじめの早期発見と早期対応を図る。また5月・12月の強化月間には正門・生徒玄関にのぼり旗を立てて啓発を図るとともに保護者にも学校HPや一斉メールを通じて情報発信を行う。	A 職92%	A 生91% 保76%	生徒の認識と教職員の認識が大きくずれている実態を分析し、個別面談や各種アンケートを利用しながら、生徒の学習実態を把握し、適切に支援していく。				
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。 ⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。 ⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	学年と各分掌が連携し、面談等を通じて生徒の健康管理や規則正しい生活習慣について指導を行う。欠席遅刻が多い生徒に対して、保護者と連携して指導していく。挨拶の励行については教職員側からの挨拶を心掛ける。 「カウンセラーだより」の配布やこころの教育事業を通じて気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。	A 職96%	B 生71% 保77%	二者面談週間や日頃からの各担任による二者面談が効果的に行われている。生徒のニーズに応じた指導ができています。				
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画に基づき、各学年と連携して、3年間を見通した系統的、段階的な指導を展開する。	A 職100%	B 生88% 保72%	学年会議や分掌会議で生徒の情報共有するだけでなく、日頃から職員間のコミュニケーションを取り、生徒の些細な言動の変化も話題にするよう努めている。				
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。 ⑯模擬試験を有効に活用し、進路選択に役立っている生徒が70%以上である。	「総合的な探究の時間」年間計画に基づき、課題設定、情報収集、探究活動等に主体的、協働的に取り組ませることを通じて、生徒自身がキャリアプランを策定する能力を向上させる。 進路指導年間計画に基づき、模擬試験を実施し、各学年で必要とされる基礎学力の定着と応用力の伸長を図る指針とする。さらに模試結果を活用した受験後の指導を充実させる。	A 職96%	C 生81% 保72%	本校いじめ防止プログラムに沿った取組を行っている。いじめ案件は組織的に早期発見・早期対応ができた。保護者への周知については、HPや一斉メールなどを活用し、学校での取組を紹介したい。				
	9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑰保護者対象の進路学習会を有意義だと感じている保護者が70%以上である。	進路学習会について、保護者が参加しやすい日程を検討し、各学年と連携し、時宜を得た進路情報をわかりやすく提供する。	A 職96%	A 生94% 保94%	ほぼすべての生徒が遅刻することなく登校できている。挨拶についてもほとんどの生徒が礼儀正しく、元気よく行えている。				
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。 ⑲図書館・桔梗館の一般開放に満足している参加者(生徒保護者を含む)が70%以上である。 ⑳Webページに掲載された情報やカレンダーの連絡が役に立っていると答える生徒保護者が80%以上である。	生徒を通じた配布物に加えて、オクレンジャーやク롬ブックなどを十分に活用し、各行事の日程や内容等について分かりやすく保護者へ連絡し、参加を促す。 図書館・桔梗館一般開放の日程をホームページ上に掲載したり、広報を作成したりするなどして、地域社会の方々に周知を図る。 各分掌、学年、部活動等から集めた情報や連絡を迅速に処理してWebページ上で発信する回数を増やす。オクレンジャーについては、掲載する内容や時期を精査して、必要な連絡を発信する。	A 職85%	B 生81% 保76%	「カウンセラーだより」を定期的に発行しているが、生徒・保護者への周知が課題である。HPやChromebook等を活用したい。				
	VI 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑳ICT機器を活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。 ㉑ICT機器を使った授業が70%以上である。	「Gunma Model Advanced」等を参考に先進的な授業の実践例を職員間で共有し合い、ICT機器活用のさらなる促進を図る。 グーグルクラスルームやスタディサブリを中心的な学習プラットフォームとして活用し、各生徒の学習状況等を可視化することで、学習意欲の向上を図る。	A 職100%	A 生91% 保67%	日頃からの教職員からの声かけや二者面談により、生徒が気軽に相談できる雰囲気作りができています。生徒とのコミュニケーションを積極的に進めていく。			
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	グーグルクラスルームを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。	A 職96%	A 生94% 保80%	感染予防対策の下、オンライン活用と対面を組み合わせる。情報収集と内容精選に努め、効果的な進路指導の在り方を研究していく。				
					A 職96%	B 生83% 保56%	本年度からデジタル教材の導入と学校HPに「総合探究」のページを作成し、発信を心掛けたが、課題として残った。今後は総合探究の様子を生徒主体で発信できるよう考えていきたい。			
					B 職69%	A 生84% 保65%	感染防止対策の下、極力、計画に沿った模試実施を行い、模試分析の形式を見直し、教科指導・進路指導に積極的に活用していく。			
					A 職100%	A 生82% 保80%	外部講師による進路講演を軸にした1、2年の保護者向け進路学習会を10月中の平日の夕方にオンラインで実施する。			
					A 職96%	A 生89% 保82%	2学期に予定されている各学年保護者学習会、第2回公開授業を通知とオクレンジャーで確実に案内する。			
					A 職92%	C 生89% 保59%	図書館・桔梗館の一般開放の日時をホームページ上に定期的に掲載し、周知を図る。			
					A 職100%	A 生94% 保96%	引き続きWebページでは日々の教育活動の発信を中心に、オクレンジャーでは保護者へ通知する情報を確実に連絡する。			
					A 職92%	A 生90% 保78%	職員同士の授業観察を行い、ICT機器を活用したより良い実践方法について意見交換を積極的に行っている。			
					A 職92%	A 生91% 保70%	教科によっては夏季休業中の課題をグーグルクラスルームやスタディサブリ等で配信し、生徒の取り組み状況や学習の理解度を把握するように努めている。			
					A 職96%	A 生94% 保82%	ほぼ全てのアンケート調査をグーグルフォームで実施したことで、集計業務等の効率化が図られている。今後、授業評価アンケートもグーグルフォームに移行していきたい。			